

ユニファイド競技会開催への試み

－全国健勝マラソン加賀温泉郷大会をモデルとして－

指導教員：金沢星稜大学人間科学部准教授 井上明浩

参加学生：アダプテッドスポーツゼミナール 宮幸太郎・深澤桂・青山亮太・石塚渉・内倉優大
加藤隼人・澤口輝・高橋雅翔・田口浩平・長谷川昂・山根悟・鶴城春妃・小池和希
小田航平・斉藤あゆみ・中川美咲・西村美里・福田悟 全18名

1. 地域活動の概要

健常者も障がい者も共に参加できるマラソン大会として全国でも数少ないイベントである当該マラソン大会を通して地域交流・地域活性化を図る。このマラソン大会は、大会関係者の努力により障がいのある選手の受け入れ態勢が整っており、これまで成功を収めてきた。次回大会は、学生の若く活気ある明るい雰囲気を出していきながら、歓迎ムードをさらに盛り上げ、支援態勢をさらに整え多くの参加者に満足してもらえるような大会にしたい。



写真1 大会の様子 大会ホームページより

2. 地域活動の具体的な内容

(1) 活動目的及びその内容

全国からの障がいのある参加者に喜んでいただくために、最寄りの交通機関到着地点への出迎えから、宿舎、会場、見送りまで、ある程度専門性を持った学生（障害者スポーツ指導員初級取得者または中級取得見込み者）が、石川県障害者スポーツ指導者協議会、金沢星稜大学陸上競技部と連携し、協働で選手のサポートにあたる。具体的には以下のとおりである。

1. 出迎え(空港、駅等) [手作りの横断幕や旗など用意]

2. コース下見、試走、練習

[アセスメントにより視覚、聴覚、肢体、知的、精神、内部等各障害に応じた支援を行う]

3. コンディショニング講座

[元パラリンピック選手強化委員長によるレース前の飲食物、マッサージ等指導助言]

4. 宿舎内サポート [宿舎内における食事、入浴、排泄、夜間対応の支援]

5. 大会サポート [ウォーミングアップ、レース、クーリングダウンを選手の要求に応じて支援する。視覚障害者あるいは知的障害者等のガイドランナーまたはガードランナー希望者に対しては、県内外のマラソン愛好者からボランティアを募集する。]

6. 大会イベント企画 [金沢星稜大学ダンス系サークルに出演依頼をして会場を盛り上げる]

7. 見送り(空港、駅等) [手作りの横断幕や旗など用意]

また障がいのある選手の参加者増や大会自体を盛り上げるため、障害者スポーツ団体等（(公財)日本障害者スポーツ協会、日本身体障害者陸上競技連盟、NPO法人日本盲人マラソン協会、日本聴覚障害者陸上競技協会、NPO法人日本知的障害者陸上競技連盟）に働きかけ、後援を取り付け有力選手の出場に協力を願う。特に日本知的障害者陸上競技連盟からは、連盟との関わりがあり、ロンドンパラリンピック日本代表選手、世界選手権金メダリスト、フルマラソン世界最高記録樹立者の参加が期待できる。

(2) 具体的地域活動

1. 会議参加 [写真2]

23年8月4日 19:00～21:00 打合せ会 市民会館3会議室

23年8月16日 13:30～14:30 打合せ会 市民会館1会議室

23年9月5日 19:00～21:15 打合せ会 市民会館3会議室

23年9月20日 19:00～21:00 打合せ会 市民会館6会議室

23年12月22日 13:30～14:30 実行委員会 市民会館2会議室



写真2 会議参加の様子

2. 稲置学園総合運動場における事前体験学習

12月14日（水）午前

大会当日の「学生お手伝いブース」（仮称）を実際設営して、当日のサポート体制を確認した。車椅子利用者やその他の障害や高齢者、マラソン初心者等に対して、想定する各障害やそれぞれのニーズに応じたサポートを、学生自身がサポートとする側と受ける側の両方を体験した。

〔写真3〕



写真3 稲置学園総合運動場の「学生お手伝いブース」

3. 加賀市陸上競技場における事前体験学習

12月18日（日）午後

3-1 駐車場から受け付け会場まで

大会当日の会場での障がいのある選手の動きを想定し、その導線に沿ってそれぞれの地点のチェック並びに改善点の洗い出しを行った。選手は大会朝、自家用車または指定旅館からの送迎バスで駐車場に到着後、直ぐに受け付け会場に向かうことになる。そこで駐車場から受け付け会場までの段差の有無の確認並びに会場内の控え場所、更衣室、トイレの確認を行った。段差や更衣室、トイレにはほぼ問題はなかった。しかし一般選手の控え場所〔写真7〕は、通常体育館2階部分の観覧席が割り与えられ、障がいのある選手にとっては不便さを感じるため、今回1階の多目的ホールが利用できるようになった。

〔受付会場写真4, 5, 6, 7, 8, 9〕



写真4 駐車場から受け付け会場



写真5 玄関ホール



写真6 受け付け会場内



写真7 選手控え場所



写真8 更衣室



写真9 受け付け会場内トイレ

3-2 受け付け会場から競技場へ

受付を済ませ、競技用のユニフォーム等に着替えを終えた選手は、順次競技場内へ移動する。競技場内において、開会式後各自ウォーミングアップを行い、マラソンスタートを迎える。この時、「学生お手伝いブース」では、障がいのある選手や高齢者、マラソン初心者等の中から希望者を対象に、陸上競技部長距離部員による専門的なアドバイス、ウォーミングアップの指導、クイックマッサージ等の支援を行う予定である。またスタート時間間近になってからのトイレや緊急な場合に対応する救護室には、問題は見られなかった。しかし肝心の競技場からセンター棟への出入り口に段差があり[写真15]、車椅子利用者が出入りするのは困難であることが予想された。この点については、大会当日には段差解消の簡易スロープを備えることになった。

[競技会場写真 10, 11, 12, 13, 14, 15]



写真10 スタート地点



写真11 ゴール地点



写真12 ブース設置場所



写真13 競技場内トイレ



写真14 救護室



写真15 競技場からセンター棟

3-3 宿舎内での支援

大会運営側指定旅館に宿泊した場合、最寄り駅の出迎えや見送り、また宿泊所内で学生の支援が受けられる。まず館内フロントロビー内にサポートデスクを常設し[写真16]、到着から翌朝の出発まで、選手からの様々な質問や要望にできるだけ対応したいと考える。例えばコースの見取り図を使い、難所やポイント等コース攻略法の案内、大会会場内の導線、受付場所や更衣室、控室、トイレ、スタート地点等細かな解説、ゴール後の導線並びに帰路に向けての案内等、考えられることを予め想定し臨機応変に対応できるようにする。またコンディショニング講座[写真17]を開き、試合前の食事の摂り方や前日のマッサージ等の支援を行う。[指定旅館写真 16, 17, 18]



写真16 サポートデスク



写真17 コンディショニング講座



写真18 サポートの具体案検討ミーティング

3. 地域活動の評価

(1) 後援依頼の了承

日本障害者スポーツ協会、日本身体障害者陸上競技連盟、日本知的障害者陸上競技連盟に後援依頼し、承諾を得た。大会要項の後援団体に中央の障害者スポーツ団体が入ったことは、地方のマラソン大会としては極めて稀なことである。これにより、障がいのある選手の参加者増や大会自体を盛り上げる事が期待できよう。

(2) パラリンピック選手の招聘実現

パラリンピックメダリストの福井県在住高田稔浩選手の出場がほぼ決定した。これによりスペシャルゲストの増田明美さんとともに、大会にはオリンピックとパラリンピアンが揃い、大会に花を添えることになる。

(3) ウォーミングアップブースの設置、ペースランナー、ガードランナーの新規参入

マラソン参加者の多くが、完走や目標タイムに向けて出場している。しかしマラソン初心者にとってはどのようなペースでいけばそれがかなうかなかなかわからない。そこで目標タイムで走れるように、3時間から30分刻みで、時間制限である6時間までペースランナーと一緒に走る。各参加者が各々の目標タイムのペースランナーと共に走れることは、非常に良い目安となり、また安心感につながる。さらに障がいのあるランナーの内希望者には、ほぼ1対1で伴走するガードランナーが走るため、安全で楽しくレースを完走する手助けとなろう。

(4) 次年度日本陸上競技連盟公認コース実現

大会要項に、「平成25年度に開催予定の第38回全国健勝マラソン加賀温泉郷大会は、コースを変更し、公認コースの取得を検討しております。温泉旅情がたっぷりの観光都市「加賀温泉郷」を快走し、美味しい特産品をご賞味いただき、自慢の温泉でおくつろぎ下さい。皆様のお越しを、心よりお待ち申し上げます。」ということが掲載された。現在全国的にやや、マラソン大会の大会数自体が過多気味の中、人気のあるマラソン大会の条件とは、公認コースでより走りやすく、記録が出やすいコースであるということが重要な要素となっている。このことに対応することであり、もし次回大会以降実現すれば大幅な参加者増が見込めるのではないかと。

4. 今後の課題

これまで学生が提案したことを、ほぼ受け入れて実行していただいた加賀市の大会実行委員会の方に感謝している。今後はいよいよ4月15日(日)の本番に向けて、学生が提案し事前学習をしたことを活かして、障がいのある方、高齢者の方、マラソン初心者の方等全てのランナーが安心してマラソンを楽しみながら完走できるように万全を期して臨みたい。さらに次回大会以降は、現在車いすの部門のみとなっている障害部門であるが、知的障害者の部、視覚障害者の部、聴覚障害者の部、立位身体障害者の部等の新設等も視野に入れたい。

5. 今回の交流・連携活動より

○ 学生の声

金沢星稜大学 人間科学部 スポーツ学科 2年 西村美里

現地に行き、初めて分かったことなどがたくさんありました。特に車椅子の方にとっては、小さな段差も移動の妨げになるということがよく分かりました。(中略)現在全国でもたくさんのマラソン大会が開催されていますが、このマラソン大会は障がい者の方をいち早く大会に参加できるようにしたということがびっくりしました。このマラソン大会をより盛り上げていくためには、もっと障がい者の方が参加しやすいようにすることが、大会の発展にもつながっていくと思います。大会の当日は、アスリートの方々に大会を楽しんでいただくために、サポートをしっかりしたいと思います。特にマッサーは、2年生の女子しか女性参加者に行えないので、しっかり責任をもって行いたいと思います。

金沢星稜大学 人間科学部 スポーツ学科 3年 山根 悟

障がいのある方やマラソン初挑戦の方達のための学生サポートとして参加するため、事前体験学習(競技場調査、マラソンコース下見、障がい者支援方法、コンディショニング講座)を行いました。この研修を通して、今回のマラソン大会は、健常者もそうだが障がいのある方やマラソン初心者の方も参加するため、特に安全面や利便性などいろいろと考えていかなくてはならない大会であると思いました。

例を上げると、障がい者の方のためにバリアフリー化がなされているのか、初心者のためのわかりやすい案内板の設置、競技場スタッフの必要性などが挙げられます。実際に競技場に訪れましたが、スロープや手すりが付いているところが少なかった。段差のあるところも多かった。また、障がい者用のトイレや更衣室の数も少ない。車椅子の方の出入りが不便になる部分があったと私自身思いました。参加者全員が安全に楽しくマラソンの楽しさをわかってもらうには、施設の設備も重要なのではないかと思います。初めてこの場所に来る人を案内したり、コース状況を聞かれたりすることもあると思います。そういったことにもしっかり対応できるよう、今回研修してきたことを生かして、本番で参加者のみなさんをサポートできるようにしていきたいです。